

宗教する心

生きていくことはむづかしいことです。さらによりよく生き、人間らしく生きていくことは、まことに至難なことでありましょう。どうしたら人間らしく生き、人間としてのほんとうの幸福しあわせを身につけることができるでしょうか。この問いはすべての人間にとつて最も困難な、しかも、最も大切な課題でありましょう。この問題をぎりぎりまで問いつめ、それを解決するものこそ真の宗教でありましょう。

宗教としての仏教によれば、最も尊い生活とは、円満に調和した鋭い理性と深い愛情、すぐれた智慧と利己なき慈悲心とを身につけ、人類の幸福を自身自身の幸福としてよろこび、人類の不幸を自分自身の不幸として悲しむ自他一如の生活であります。このような智慧と慈悲の極致こそみ仏の世界であります。みにくい自己を悲しみながら、み仏に導かれ、み仏に照らされている自己を慶び、感謝と報恩の九十年間を安らかに生きぬかれた方こそ浄土真宗の開祖親鸞聖人でありました。

(相愛女子大学・相愛女子短大展望から)